

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- ①主体的・対話的で深い学びの視点からの学習過程の改善・充実
- ②自ら学び、自ら考える子どもの育成

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員
教務主任
中村 光男

委員
校長 林 哲史 教頭 橋本 賢治 研修主任 八島 美穂
6学年 川口 能史 5学年 宮下 鉄矢
4学年 大下 真季 3学年 谷 正博
2学年 中桐 奈美 1学年 福井 優美

校長

林 哲史

【小中連携または中高連携における共通の取組】

主体的・対話的で深い学びを育む授業づくり（自ら学び考える子どもの育成をめざして）

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や、学力向上委員会等の機会において、取組状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○「授業中、先生や友達の話をきちんと聞いている。」(以下 A とする)の肯定的意見は、5・6年生で 91.7% であった。 ●ICT機器の積極的・効果的な活用し、より一層の「わかる授業」の実践に努める。	・学習課題にしっかりと取り組み、国語・算数の基礎的・基本的な学習内容を確実に習得できる。	・ 聞き方・話し方スキル を提示し、話を理解しながら聞き、自分の意見を進んで話す態度を育てる。 Aの90%以上を目指す。 ・TT指導の工夫、ICT機器の積極的な活用 ・前時からの継続を大切にする。 ・「めあて」の提示と「見通し」の確認をする。	・取組の継続 ・タブレットの使用・定着を図る。 ・相手を見て聞く、反応しながら聞く姿勢の定着に取り組む。 ・正しく聞き取る練習として聴写に取り組む。	「授業中、先生や友達の話をきちんと聞いている」は前年から -5.4% 。全国学力テストや県ステップアップテストの結果が県平均を下回ったが、昨年より県平均に近づいた。	令和4年度は「授業中、先生や友達の話をきちんと聞いている。」の肯定的意見は、5・6年生で 86.3% であった。令和5年度も 90%以上 を目指す。 ・タブレットの更なる使用・定着を図る。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○対話や話し合い活動は実践しにくい状況にあったが、書いた成果物を掲示する等の工夫はできていた。 ●「授業中、進んで発表しようとしている。」(以下 B とする)の肯定的意見は、5・6年生で 51.6% であった。	・自分の考えを持ち、話したり、書いたりして、相手に分かりやすく表現することができる。	・ 話し方スキル を提示し、声の大きさに気をつけながら、きちんと話す態度を育てる。 Bの55%以上を目指す。 ・学習活動の中で、自分の考えを筋道を立てて文章に書いたり、表現したりする機会を意図的に設ける。	・取組の継続 ・タブレットの使用・定着を図る。 ・考えや感想を書く機会を多く設定する。 ・言い換え、比較、関連付け、理由、根拠等に着目し、深い学びにつなげる。	「授業中、進んで発表しようとする」は、前年から -8.6% 。コロナ蔓延防止のため話し合いを避け、教師が進める授業が増えたことが影響している。タブレットを使用した研究授業等に積極的に取り組んでいる。	令和4年度は「授業中、進んで発表しようとしている。」の肯定的意見は、5・6年生で 43.0% であった。令和5年度は 60% を目指す。 ・タブレットの更なる使用・定着を図る。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○めあてを確認してからの学習は、児童の中にも定着しつつある。 ●「家庭でも、毎日勉強をし、宿題をきちんとする。」(以下 C とする)の肯定的意見は、5・6年生で 83.6% であった。	・各教科の学習に主体的に取り組むことができる。 ・宿題や課題はきちんと提出することができる。	・めあての提示、見通しをもった自力解決や学び合い、まとめや振り返りという学習の流れを大切にする。 ・「家庭学習の手引き」を提示し、家庭との連携を深めながら、家庭学習の習慣を定着させる。 ・授業中や帰りの会等で家庭学習の内容に触れる。 Cの85%以上を目指す。	・取組の継続 ・タブレットの使用・定着を図る。 ・家庭学習の定着が不十分だったり、学習理解が不十分な児童には、可能な範囲で放課後学習に取り組む。	「授業(勉強)はよく分かる」では「よくあてはまる」児童は、前年から +1.8% 。「家庭でも毎日勉強し、宿題をきちんとする」の「あてはまる」児童は前年から -1.1% 。	令和4年度は「家庭でも、毎日勉強をし、宿題をきちんとする。」の肯定的意見は、5・6年生で 82.5% であった。令和5年度は 85%以上 を目指す。家庭学習の定着が困難な児童に放課後学習を検討する必要がある。 ・タブレットの更なる使用・定着を図る。

令和4年度 学力向上ロードマップ



